

令和元年度版

# 観光の実態と志向

第38回 国民の観光に関する動向調査



公益社団法人 日本観光振興協会  
JAPAN TRAVEL AND TOURISM ASSOCIATION

## 1. 調査目的

国民の観光旅行の動向を明らかにし、諸施策を推進するための基礎資料の作成を目的とする。

## 2. 調査項目

- (1) 過去1年間(平成30年4月～平成31年3月：以下同様)の宿泊旅行の概要
- (2) 過去1年間の宿泊観光旅行
- (3) 今後の観光旅行の志向
- (4) その他

## 3. 調査の設計

- (1) 対象地域 全国(47都道府県)
- (2) 調査の対象 インターネットモニター  
\*母集団は、クロス・マーケティング  
ネットモニター
- (3) 対象者条件 15歳以上の男女個人  
\*ただし、マスコミ・広告、新聞・放送業、  
市場調査の業種従事者は、調査関連業種として除外している。
- (4) 設計標本数 20,000
- (5) 標本抽出方法 都道府県別、性年代別人口構成比に準拠して割付(平成27年度国勢調査結果を使用)
- (6) 調査方法 インターネット調査
- (7) 調査時期 令和元年10月4日～10月7日

注1：第9回昭和55年調査までは満18歳以上の男女が調査の対象であったが、第10回昭和57年調査から満15歳以上と対象年齢を3歳下げた。第21回平成14年度調査からは対象者を全国民とした。また、第31回平成24年度調査からは、15歳以上のインターネットモニターを対象とした。

注2：第18回平成11年度調査までは対象時期が9月～8月であったが、第19回平成12年度調査からは4月～3月としている。なお、第31回平成24年度調査からインターネット調査とした。

## 4. 調査担当

株式会社クロス・マーケティング

## 5. 回収結果

有効回収数 21,887

## 6. 分類定義

地域	北海道	北海道
	東北	青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
	関東	茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県
	甲信越	新潟県、山梨県、長野県
	中部	富山県、石川県、福井県、岐阜県、静岡県、愛知県
	関西	三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
	中国	鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
	四国	徳島県、香川県、愛媛県、高知県
	九州	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県
都市規模	大都市	東京23区+政令指定都市
	中都市	人口10万人以上の都市
	小都市	人口10万人未満の都市
	町村	郡部・町村

## 7. 調査対象の特性

		(人数)	(%)
全 体		21,887	100.0
地 域	北 海 道	956	4.4
	東 北	1,593	7.3
	関 東	7,374	33.7
	甲 信 越	900	4.1
	中 部	2,833	12.9
	関 西	3,853	17.6
	中 国	1,295	5.9
	四 国	697	3.2
	九 州	2,386	10.9
都 市 規 模	大 都 市	7,073	32.3
	中 都 市	9,639	44.0
	小 都 市	3,873	17.7
	町 村	1,302	5.9

## 7. 調査対象の特性(つづき)

		(人数)	(%)
全 体		21,887	100.0
性別	男 性	10,727	49.0
	女 性	11,160	51.0
年 齢	15 ～ 17 歳	592	2.7
	18 ～ 19 歳	693	3.2
	20 ～ 24 歳	978	4.5
	25 ～ 29 歳	1,680	7.7
	30 ～ 34 歳	1,307	6.0
	35 ～ 39 歳	1,931	8.8
	40 ～ 49 歳	3,700	16.9
	50 ～ 59 歳	3,205	14.6
	60 ～ 69 歳	3,741	17.1
	70 歳 以 上	4,060	18.5
同居家族の人数	1 人 (自分のみ)	4,043	18.5
	2 人	7,306	33.4
	3 人	5,241	23.9
	4 人	3,547	16.2
	5 人	1,139	5.2
	6 人 以 上	611	2.8
同居家族の形態	単 身 世 帯	4,043	18.5
	夫 婦 だ け の 世 帯	5,895	26.9
	夫 婦 と 親 の 世 帯	1,637	7.5
	夫 婦 と 子 供 の 世 帯	6,874	31.4
	親 と 夫 婦 と 子 供 だ け そ の 他	1,124	5.1
世 帯 所 得	200 万 円 未 満	2,161	9.9
	400 万 円 未 満	4,593	21.0
	600 万 円 未 満	3,792	17.3
	800 万 円 未 満	2,490	11.4
	1000 万 円 未 満	1,477	6.7
	1500 万 円 未 満	1,179	5.4
	2000 万 円 未 満	261	1.2
	2000 万 円 以 上	162	0.7
不明・答えたくない	5,772	26.4	

		(人数)	(%)
全 体		21,887	100.0
未 既 婚	未 婚	7,327	33.5
	既 婚 (配 偶 者 あ り)	12,535	57.3
	既 婚 (離 別 ・ 死 別)	2,025	9.3
免 許 保 有	持 っ て い る	17,086	78.1
	持 っ て い な い	4,801	21.9
職 業	農 林 漁 業	140	0.6
	自 営 の 商 工 業	1,023	4.7
	自 由 業	723	3.3
	管 理 職	1,109	5.1
	事 務 ・ 技 術 職	4,618	21.1
	労 務 ・ 技 能 職	2,831	12.9
	主 婦 ・ 主 夫	5,537	25.3
	学 生	1,567	7.2
	無 職	4,339	19.8

<「自営の商工業」「管理職」「事務・技術職」「労務・技能職」について>

		(人数)	(%)
全 体		9,581	100.0
勤 務 先 の 休 日 数	8 日 以 上	6,317	65.9
	5 日 ～ 7 日	2,426	25.3
	4 日 以 下	688	7.2
	そ の 他	150	1.6
週 休 曜 日	決 ま っ て い る	6,907	72.1
	決 ま っ て い な い	2,674	27.9
有 給 休 暇 取 得 日 数	5 日 以 下	2,289	23.9
	6 ～ 10 日	2,182	22.8
	11 ～ 15 日	1,182	12.3
	16 日 以 上	1,080	11.3
	有 給 休 暇 は と ら な か っ た	1,059	11.1
	有 給 休 暇 は な い	1,789	18.7

<「就業形態」(主婦・主夫を含む)について>

		(人数)	(%)
全 体		15,118	100.0
就 業 形 態	正 規 の 職 員 ・ 従 業 員	6,703	44.3
	パ ー ト ・ ア ル バ イ ト	2,819	18.6
	派 遣 社 員	322	2.1
	契 約 社 員 ・ 嘱 託	826	5.5
	そ の 他	602	4.0
	無 職	3,846	25.4

表 1. 過去 1 年間の実態 一 宿泊観光旅行

項目	宿泊観光旅行の実態	
1) 参加率	50.1%	
2) 参加回数		
全体平均	1.35回	
参加者平均	2.69回	
3) 実施月	8月が 14.8%でピーク	
4) 目的地	県内	10.4%
	県外	88.0%
5) 出発した日	平日	37.8%
	土・日・祝	35.2%
6) 行動 (複数回答)	①自然の風景をみる	35.4%
	②温泉浴	28.5%
	③名所・旧跡をみる	26.8%
7) 主な行動	①温泉浴	17.9%
	②自然の風景をみる	15.4%
	③名所・旧跡をみる	13.7%
8) 同行者	①家族	56.4%
	②友人・知人	19.9%
	③自分ひとり	16.1%
9) 同行人数	①2～3人	59.4%
	②1人	16.9%
	③4～5人	14.8%
10) 利用交通機関 (複数回答)	①自家用車	42.3%
	②JR鉄道	33.1%
	③飛行機	16.5%
	④私鉄	12.0%
	⑤路線バス	9.0%
11) 宿泊施設	①ホテル	63.0%
	②旅館	22.3%
12) 宿泊数	平均 1.70泊	
13) 旅行費用		
総費用	54,880円	
宿泊費	21,250円 注)旅行会社の募集团体	
交通費	15,950円 及び「職場、学校」	
土産の費用	5,270円 「地域宗教」の団体	
観光行動費	11,280円 を除く	

表 2. 過去 1 年間の宿泊旅行の実態

旅行の種類	参加率	参加回数 (全体平均)	参加回数 (参加者平均)
全体	63.5%	2.58回	4.06回
観光旅行	50.1%	1.35回	2.69回
出張などの商用	9.4%	0.48回	5.12回
帰省などの私用	16.9%	0.49回	2.89回
兼観光旅行	10.0%	0.25回	2.55回

表 3. 今後 1 年間の宿泊観光旅行の希望

1) 参加希望率	70.8%
2) 参加希望回数	2.38回
3) 希望季節	秋 32.7%、 春 20.2%
4) 希望宿泊数	2.15泊
5) 希望費用	総費用 48,720円 1泊あたり宿泊費 11,270円
6) 希望する旅行の種類	①温泉を楽しむ 45.8% ②食を楽しむ 26.0% ③寺社仏閣を楽しむ 24.8% ④季節の花々を楽しむ 24.3% ⑤リゾートライフを楽しむ 23.3%

# 1. 令和元年度調査結果のポイント

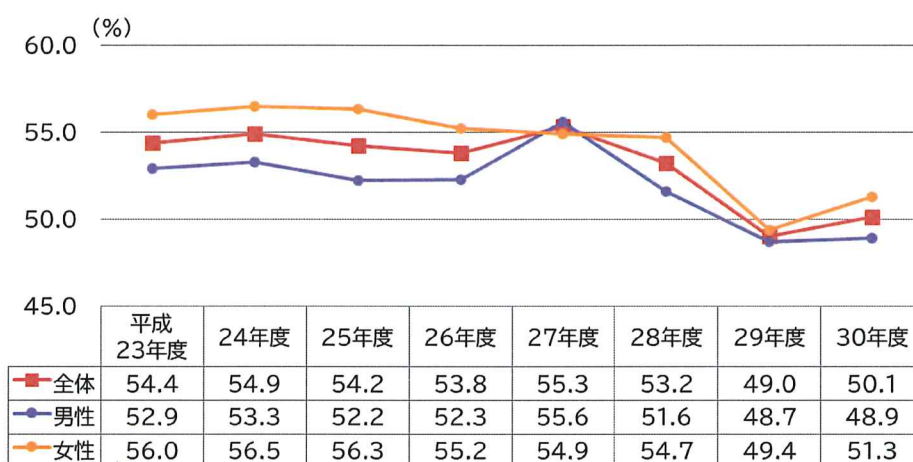
本調査は、全国の20,000人を対象に、平成30年度（平成30年4月～平成31年3月までの1年間）の国内旅行の実態と、今後の希望について調査を行ったものである。この調査は、昭和39年から継続して実施しており、国民の観光動向を50年以上のロングスパンで比較検証できる調査である。ただし、平成24年度調査（23年度の宿泊観光旅行実態を調査）から、これまでの訪問留置調査からインターネット調査へと調査手法を変更したため、平成22年度以前と平成23年度以降のデータとは単純に比較はできない。

平成30年度の宿泊観光旅行は、昨年度の旅行実態よりも参加率が増加し、回答者の半数が1年間に1回以上の宿泊観光旅行に参加している結果となった。

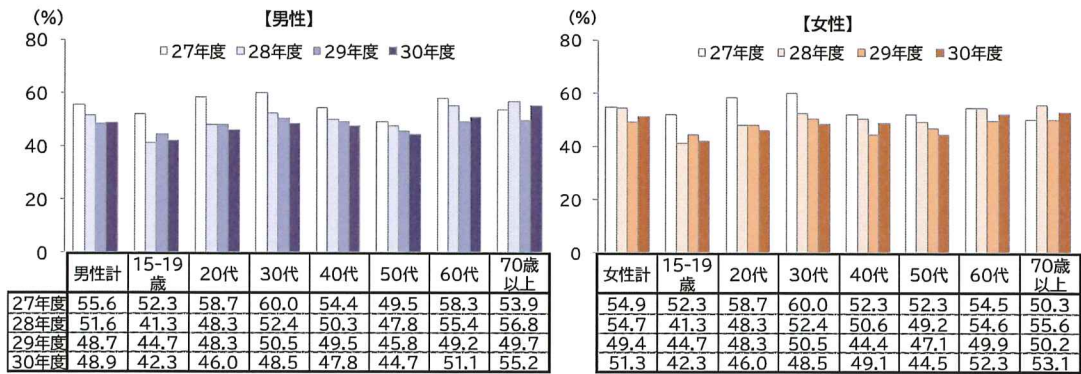
## Data 1 宿泊観光旅行の参加率

平成30年度における宿泊観光旅行への参加率は50.1%となり、昨年度に比べ1.1ポイントの増加となっている。性別にみると、男性の参加率は昨年度に比べ0.2ポイント増の48.9%、女性の参加率は昨年度に比べ1.9ポイント増の51.3%であった。宿泊観光旅行の参加率は、昨年度まで2年連続で減少傾向となっていたが、昨年度に比べて男性はほぼ同程度、女性では僅かに増加した。

性・年代別にみると、男性の60歳以上の参加率は上昇しているが、10～40代では減少しており、特に20～40代は平成23年度以降過去最も低い参加率である。女性では40代、60代、70歳以上で上昇しているが、20代では27年度をピークに漸減傾向にあり、平成23年度以降最も低い参加率となっている。



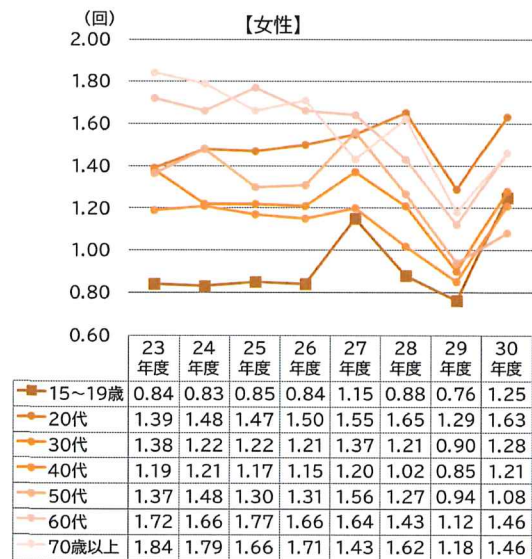
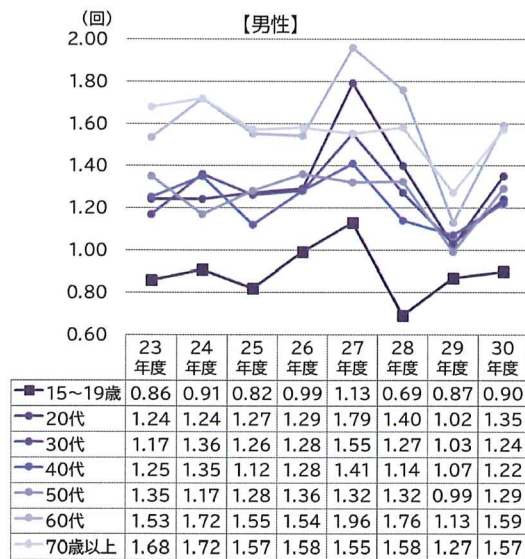
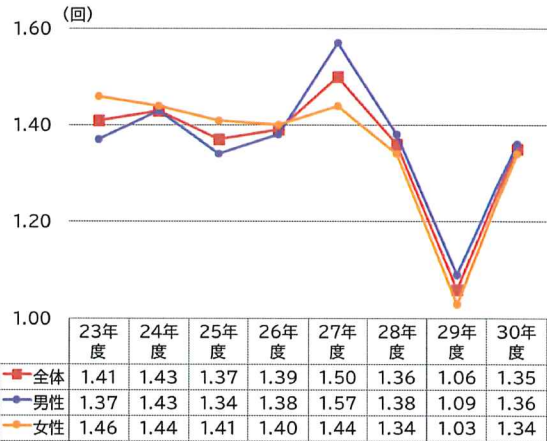




## Data 2 宿泊観光旅行の回数

宿泊観光旅行への参加回数は全体で 1.35 回と昨年度に比べ大幅に上昇し、平成 28 年と同程度に回復した。男性は 0.27 回、女性は 0.31 回の増加となっている。

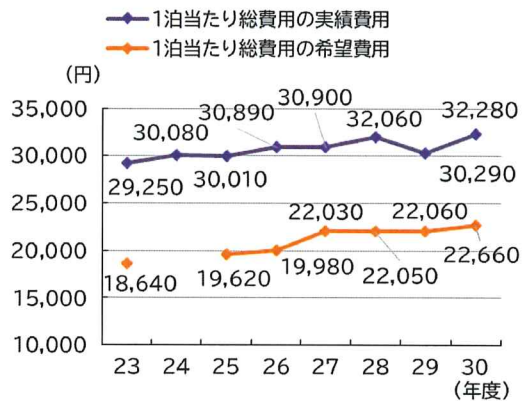
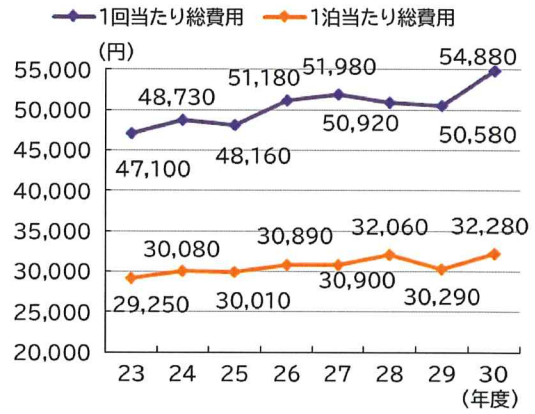
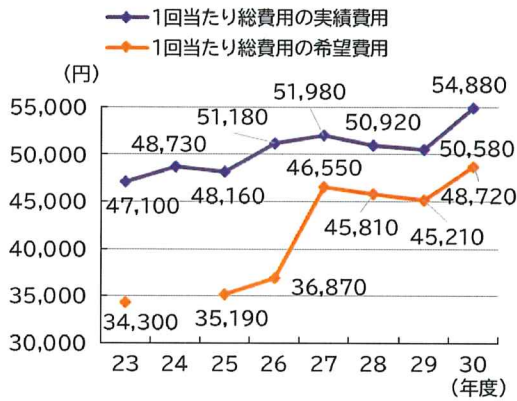
性・年代別では男女とも全ての年代で昨年度から参加回数が増加している。特に女性の増加が顕著で、10代は 0.49 回、20～40代、60代においても 0.3 回以上増加している。男性では 20代と 50代以上で 0.3 回以上増加している。



### Data 3 旅行費用

宿泊観光旅行における1回当たりの総費用は54,880円で昨年度から4,300円の増加となっている。1泊当たりの総費用は1,990円の増加である。

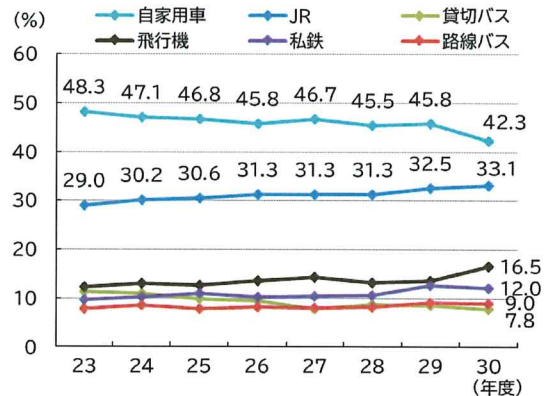
一方、希望費用では、1回当たりの総費用が48,720円と、昨年度から3,510円増加し、1泊当たり総費用は22,660円と若干の増加となっている。



※希望費用については、平成25年度調査（平成24年度）のみ調査手法を変更しておりデータ比較が困難なため、掲載をしていない。

### Data 4 交通手段

宿泊観光旅行における利用交通手段は、引き続き「自家用車」が42.3%と最も高く、次に「JR」の33.1%、「飛行機」の16.5%と続く。経年的変化で見ると、自家用車が3.5ポイント減少し、貸切バス、私鉄も若干ではあるが減少傾向となっている。一方、JRは若干ではあるが増加傾向となっている。飛行機は昨年度から3.0ポイント上昇し、平成23年度以降最も高くなっている。路線バスについては、概ね同水準での推移となっている。

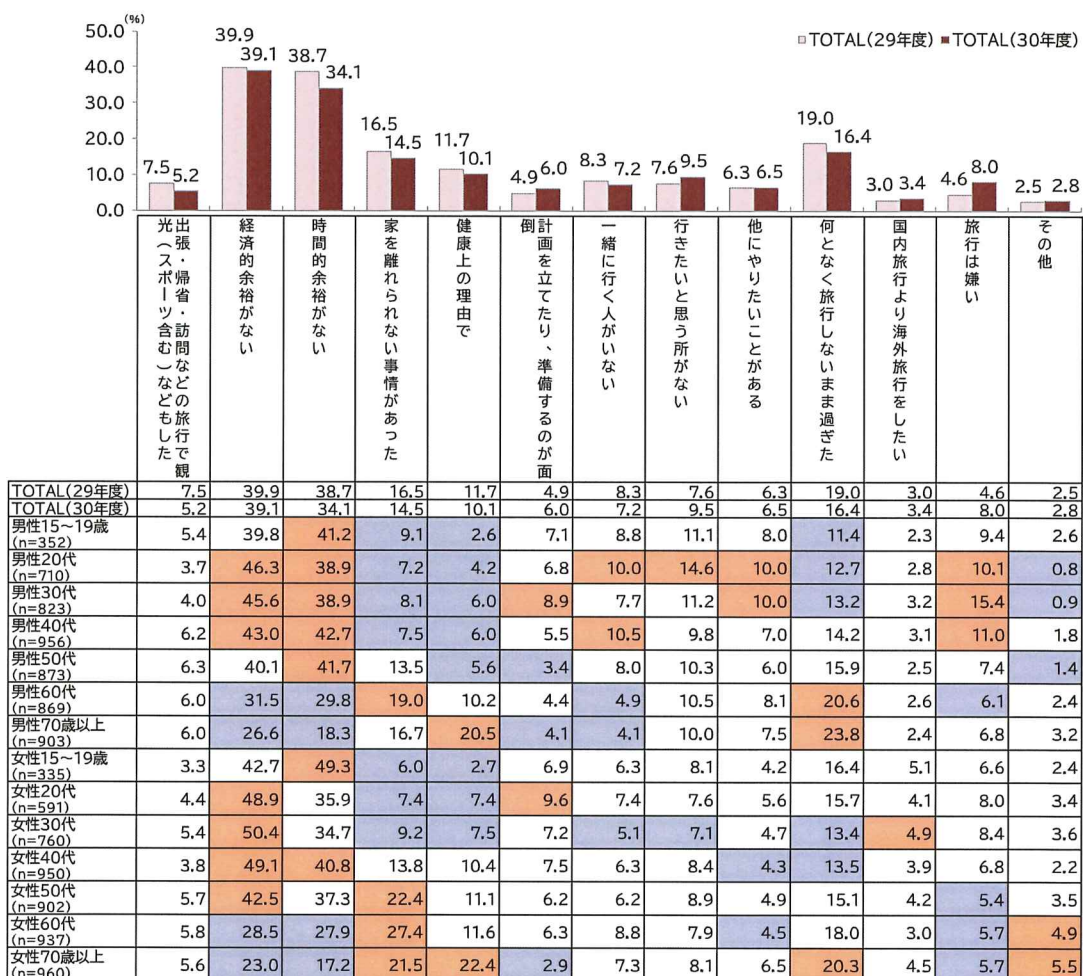




## Data 5 宿泊観光旅行をしなかった理由

性・年代別に「宿泊観光旅行をしなかった理由」をみると、男性50代以下は「時間的余裕がない」、女性50代以下は「経済的余裕がない」をあげる割合が高く、それぞれ4割前後にのぼる。また、男性60代、女性50代以上では「家を離れられない事情があった」が目立ち、自身の体調や家族の介護といった各家庭での事情があったことが推測される。女性20代においても「経済的余裕がない」の回答率が高くなっているが、女性の他の年代と比べて「計画を立てたり、準備するのが面倒」の割合が高いことが特徴的であり、宿泊観光旅行への参加率や参加希望率の低下に繋がっていると考えられる。

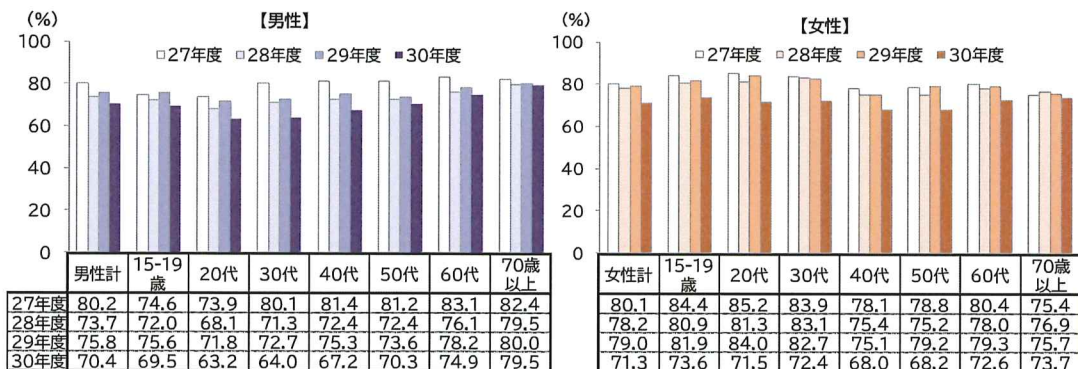
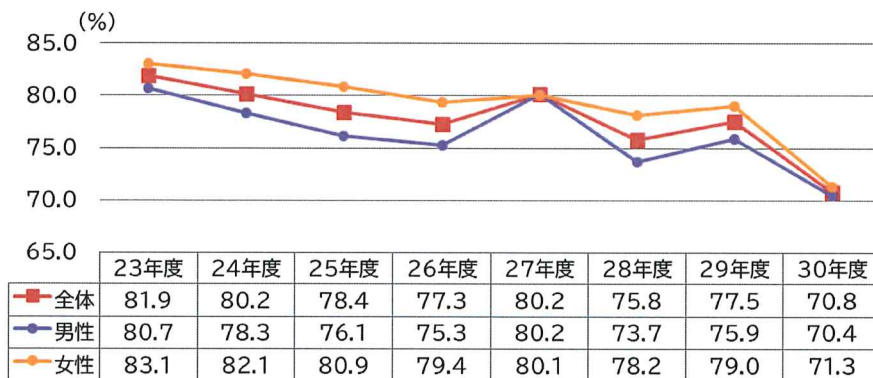
昨年度調査と比較すると、男女とも「経済的余裕がない」、「時間的余裕がない」、「何となく旅行しないまま過ぎた」の回答率が減少しているほか、「一緒に行く人がいない」も減少傾向がみられる。一方で、「行きたいと思う所がない」、「旅行は嫌い」の回答率は増加していることから、旅行に行くための条件を満たすことよりも、旅行に対する優先度自体がやや低下している可能性がある。



※ ■ TOTALよりも95%以上の水準で有意に高い ■ TOTALよりも95%以上の水準で有意に低い  
 ※ベース：宿泊観光旅行をしていない人

## Data 6 宿泊観光旅行への参加希望率

宿泊観光旅行への参加希望率は、昨年度に比べて6.7ポイントの大幅な減少となっている。宿泊観光旅行の参加率・回数ともに今回調査では増加に転じたが、宿泊観光旅行にかかる費用の増加や、旅行に対する関心の薄れ（優先度の低下）が参加希望率の低下に影響していると考えられる。





公益社団法人 **日本観光振興協会**  
JAPAN TRAVEL AND TOURISM ASSOCIATION

Supported by  
**日本財団**  
THE NIPPON  
FOUNDATION